

平成 19 年度第 1 回山形県立博物館協議会 記録

日 時 平成 19 年 9 月 6 日 (木)

13 : 30 ~ 15 : 30

場 所 山形県立博物館講堂

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 山形県立博物館協議会長・副会長の選出

教育機関の組織及び運営に関する規則 5 4 条の規定に基づき、会長に丸山委員、副会長に日野委員を選出。

5 報告

- (1) 平成 1 9 年度主要事業の進捗状況について (尾形副館長、高橋副館長が説明)
質疑は次項とともに一括して行うこととした。

6 協議事項

- (1) 山形県立博物館の今後の運営及びありかたについて

【日野委員】 博物館のふるさとセミナー「山形の町並み」(5/31、6/7) は、文翔館とも共催して好評であった。参加者も多く、報道でも取り上げてくれた。県生涯学習文化財団(文翔館)として博物館を見ると、博物館は専門家が揃っている、財団職員は長くて3年の嘱託、博物館の専門家の力をいただくのは有り難い。文翔館の若い職員たちも熱心で、呑み込みも早く、博物館の協力は文翔館の為にも良いことである。今後とも共催事業に取り組みさせていただきたい。博物館の方で予算が厳しいとしても、共催により、ポスター制作など文翔館としての協力は可能である。両館力を合わせていきたい。町並みセミナーの共催は博物館側から働きかけを受けて形になった。他の分野の学芸員からも遠慮なく呼びかけてほしい。財団(文翔館)と他の館との協力の例では、私と中学・高校で同級だった五百澤智也氏の「山の科学画展」を山大附属博物館との共催で19・20年度に実施する。当財団が役に立てるので楽しみな企画である。博物館でも自館単独に加えて、機会をとらえて共催の呼びかけも考えてもらいたい。これからもよろしく願います。

【丸山会長】 博物館間の連携について、単独館では困難なことが館のネットワークが繋がると連携でカバーできる。大学でも同様の事情にある。今後の方向として、

地域や他館との連携が重要と思う。

【酒井委員】 入館者動向に関して、①入館料減免の範囲はどこまでか。子どもたちが館内で楽しく遊んでいる、無料の効果かと思う。致道博物館としてはまだ無料に踏み切れないでいるが。②入館団体（学校）に地域性が見られるか。

【高橋副館長】 ① 主として高校生以下の児童生徒（幼児も）、障がい者を免除としている。

【安部委員】 私も学校と博物館の連携について聞きたい。

【阿部館長】 ②庄内地域からは少ない（村山地域が多い）。小学校4年生が、学習とのかねあいで多い。

【大場委員】 地元の利で、市内の小学が利用しているが、多忙な学校生活の中で総合学習を十分に享受できていないと思う。

昨年5月に全国都市教育長会議（佐賀県）に参加したとき、佐賀市内の博物館、美術館、お城などすべて入館無料になっていて、色々回ってみた。山形市内の館について考えさせられた。佐賀市では入館料はあてにしておらず、篤志家の寄付でもっており、博物館愛好者も拡大している。入館料を歳入財源としているだろうが、無料化を考えたことがあるか。

【高橋副館長】 17・18年度の博物館活性化検討において無料化を考えたが、活性化策自体が頓挫してしまった。予算に占める入館料の割合は小さいものであり、無料化による利用拡大の効果の方が大きいと考えられる。

【丸山会長】 県教育界全体として、県立文化施設の無料化とか旅行斡旋団体等との連携を考えていくべきだと思う。「エリアキャンパスもがみ」の効果で山大が小学校の遠足コースに組み込まれて、大学の授業を小学生が見学する。5・6月の遠足時期、大学も雰囲気が変わったと感じられるし、学生も喜んで案内している。

【大場委員】 県立博物館、山形市郷土館、山形美術館、最上義光歴史館などの連携で協調していく必要がある。

【日野委員】 文翔館は無料が開設当初からの方針だった。入館料と徴収のための人件費を比較すると無料にメリットがある。北海道東北知事会議で浅野宮城県知

事から100円でもいいから徴収したらいいと助言されたが、本県の方針で、と答えた。徴収のための人件費コストが大きい。

大場委員の佐賀県での話を聞いて感じたこととして、同県の幕末明治における人材輩出はすごい。山形県博も歴史分野を充実してほしいと思う。篤志寄付は諸外国では普通のこと、佐賀県でもそうなのかと地力を再認識した。本県でもその機運を醸成できないものか。

名古屋市美術館では小学生が床に腰をおろして展示物のスケッチをしていた。横浜美術館にはそのための備えがある。文翔館でも子どもの賑やかな声が聞こえるのはいいものだ。県博でもスケッチなどさせてもいいのではないか。

【大場委員】 佐賀から帰って山形市の部長会議で無料化を提案したが一笑に付された。県でも考えてはどうか。

【丸山会長】 庄内地域では博物館のまとまり、連携が見られるが、その辺の状況は酒井委員どうか。

【酒井委員】 庄内ではネットワークができています。鶴岡アートフォーラムに致道博物館のものを出している。本間美術館と酒田市立美術館でも連携がある。ネットワーク構築は難しいが、鶴岡市域では学芸員同士の交流を始めている。

【尾形副館長】 県内各館の学芸員同士の組織だった交流はないが、県博物館連絡協議会の研修会（今年は11月に長井市で開催）で東北芸工大の協力を得て文化財防災ネットワークについて研修する企画をしている。地域毎のネットワーク化は進んでいないが、庄内地域における致道博物館等の連携などを先導に進めていく必要があると考える。

【安達委員】 やまがたミュージアム週間の実施について、苦勞してここまでこぎつけた努力は大切に、実施は楽しみである。困難も多いただろうが。具体的な事業内容として、全加盟館共通の特別な取り扱い、これがもっとも肝要と思う。上山市でも斎藤茂吉記念館、上山城、蟹仙洞3館のスタンプラリー（抽選でプレゼント）に取り組んでいる。規模（財政、人的）の違いがあるが、負担金を三等分している。思ったように人が集められないが。ミュージアム週間を継続するには県全体で動ける何かが必要と思うが、館長の見通しはどうか。

【阿部館長】 県博物館連絡協議会においても組織全体に浸透させることに努める。同会の企画委員会のプロジェクトとして検討がスタートし、ミュージアム週間を

とりあえず発足させようと立ち上げた。多くの方にミュージアム週間を知っているとされるようにしていくのがまずは大事と考えている。

【高橋副館長】 キャンペーン標語、ミュージアム週間は館員たち自らの企画、活動として温かく見守ってほしい。

【酒井委員】 県博物館連絡協議会では県博を中心に連携はとれている。相互交流はまだまだであるが。個々の段階での連携が表に出てくるようになるといいと思う。各館の存立の事情から一斉の活動は難しいが、できるところから始めようということである。少しずつ連携を深めていきたい。

【丸山会長】 今後の連携にふさわしいミュージアム週間の話題を提供してもらえらることを期待したい。

【板坂委員】 小学校の現場では博物館の活動はまだまだ知られていない。点を面にしてもらおうと、1箇所にとどまらず沢山の箇所を見てよかったという感じを持ってもらえるようになる。

【丸山会長】 山形美術館、最上義光歴史館、山形市郷土館(済生館)など、活動がまとまればいいと思われるものがある。県が主体となってパッケージで提供できるように
なるといい。

【吉田委員】 「博学連携」の言葉が最近少しずつ使われ出してきた。授業でも美術では上杉博物館の取り組みなどが出ている。博物館に来て授業に活用するには移動手段がネックとなる。学校現場から県博に学芸員を出している関係を活用して出前博物館を取り入れるとか。県博には学校の学習に結びつけられることを特長に出してほしい。博物館活性化の大構想が頓挫する中で、県立の総合博物館としての役割が見えにくくなっているのが残念である。

【丸山会長】 中学生のインターンシップに博物館の位置づけはどうなっているか。

【吉田委員】 中学校ではキャリアスタートウィーク（5日間）に取り組んでおり、博物館での体験も含まれる。

【尾形副館長】 博物館にとっては大学生の学芸員実務実習と同様の位置付けで受け

入れている。今夏の例では、県に一括受け入れた中で1・2日を博物館に割り振られたので、ちょうど特別展の展示作業の時期に当たって、それに加わってもらった。学芸員の仕事の一端に触れてもらうことをねらいとしている。

出張博物館は、学校に人、展示資料を提供している。最近では左沢高にダイカイギウ発掘の資料を貸し出した。県博の特長として、山形に来られた方に山形のことをわかってもらえることを目指すのも一つである。

【大場委員】 県博はその特色をうまくアピールできていないと感じる。館内リニューアルの計画を立てても予算が付かない、と沈滞している。県教委としてどう考えているのか、やまがたセレクションを推進する知事にも、文化面のセレクションとして県博の充実が問われる。この敷地は、史跡整備が平成35年には完成する計画だが、それまでのんびり居られるのか。ここに見切りをつけて新天地での新構想をスタート、ということこそが県博のイメージを打ち立てる原動力となろう。他県に比べて県博は見劣りする。県民が誇りを持てるように、新しい所に出て行く構想が県には必要だと考える。

【佐藤生涯学習主幹】 史跡を所有する山形市に対して「平成20年度前期までは出られない」とかつて県側から申し入れたが、現時点では35年のリミットぎりぎりまで現施設でお願いしたい、と山形市に交渉しようとしているところである。県博に本県のシンボルとしての価値を与えるべきことはそのとおりだが、教育施設の耐震改造などの緊急な優先事項があり、譲らざるをえない状況である。教育庁としては県博に現状でできることがあるか、工夫をしながらやって行かざるを得ない。ご意見は教育庁に持ち帰って伝えたい。

【丸山会長】 このミュージアム週間の取り組みが県博の将来にとっていいきっかけとなっていけばいいと考える。

【吉田委員】 当協議会としては、新築整備の大構想を求めていくことが必要と思う。県に対しては、文化行政をどう考えているのかという問いかけをしていくことが肝腎である、リニューアルという小さなことではなく。

【阿部館長】 県の財政事情も大変だが、山形の文化をどうしていくのか、という原点に立つての検討が必要と受け止め、頑張っていきたいと思う。

【丸山会長】 頑張っている学芸員の活動が見えづらい。地域連携、出前博物館、キャリアスタートウィーク受け入れなど、学芸員の活動の積み上げが必要だと思

う。大学の教員にも近年それが強く求められている。

【野口委員】 学校との連携が大切と思う。出前博物館にはメニュー化、パッケージ化が伴えば導入しやすい。県として文化をどうとらえるかが肝腎というのには同感する。世界遺産に向けた県民運動に、県博物館連絡協議会でも関わっていくのがいいと思う。

県博のセミナーは盛況だと感じる。一般のカルチャー教室でも歴史・文化重視の流れがある。ターゲットを女性にも広げるのが大切で、植物観察や民芸品づくりなど、やわらかな取り組みから始めていってはどうか。

【丸山会長】 県には新博物館構想を積極的に考えてもらいたいこと、日々のきめ細かい活動やまめなPRが大切だということをまとめとしたい。

【安部委員】 文化庁の新しい博物館のあり方についての提言を県としてどう受け止めていくか、今後を注視したい。

(閉会)